

日本健康心理学会メールマガジン No.14



2013年9月21日 第14号

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラムvol.10 愛知教育大学 小関俊祐先生

1) 学会からのお知らせ

<http://jahp.wdc-jp.com/>

■機関誌の冊子版送付（無償）について

●機関誌「健康心理学研究」は今後、電子版を発行する予定です。冊子版についても従来通り無償で全会員へ配布することになりました。電子版をご覧になれない方もご安心ください。

■2014年第27回大会の開催について

●2014年11月1日（土）・2日（日）に
沖縄科学技術大学院大学（<http://www.oist.jp/ja>）にて開催予定です。

■笹川スポーツ財団から、2014年度笹川スポーツ研究助成の案内がきています。

http://www.ssf.or.jp/encourage/grant/index_2014.html

■研修委員会より

●第86回研修会（講師：澤田先生）は、第26回大会初日に30名超の参加者を得て無事修了しました。
●2013年度研修会は、12月初旬に大阪人間科学大学で第87-88回来年2月に東京で第89-90回の開催を予定しています。
内容・日程は適宜ホームページ「研修」、Blog「認定研修委員会」で開示します。

■資格認定委員会より

●2013年度の健康心理士および専門健康心理士資格認定試験を下記の通り実施します。

資格取得を希望し、要件を満たしている方は、いずれか一方での受験が可能です。

2013年12月14日（土）：桜美林大学町田キャンパス

2013年12月15日（日）：大阪人間科学大学庄屋学舎

資格申請の手引き、2013年度試験要項、資格申請書類（受験願書）はホームページに掲載されておりますのでご参照ください。

■研究推進委員会より

●研究部会制度に基づく活動助成の募集を2013年度も行います。新規・継続の申請を受け付けます。締め切りは2013年10月20日です。

<http://jahp-research.blogspot.jp/>

■学会HP更新情報（9/18時点）

●国際委員会
▲ACHP2013にて国際委員会企画のシンポジウムが行われました（8/28）

http://jahp-international.blogspot.jp/2013/08/achp2013_28.html

●研究推進委員会

▲2013年度研究部会への助成募集の開始（9/17）
http://jahp-research.blogspot.jp/2013/09/2013_18.html

▲26回大会で研究部会結集し経過・成果を報告！（9/13）
<http://jahp-research.blogspot.jp/2013/09/26.html>

●研究実践支援委員会
▲26回大会：委員会主催シンポジウムの報告（9/11）
<http://jahp-practice.blogspot.jp/2013/09/blog-post.html>

●機関誌編集委員会

▲26回大会：委員会主催シンポジウムの報告（9/12）

<http://jahp-journal.blogspot.jp/2013/09/blog-post.html>

●認定・研修委員会

▲第86回研修会の報告（9/11）

<http://jahp-certification.blogspot.jp/2013/09/blog-post.html>

2) 健康心理学コラムvol.10

「特別な支援が必要な子どもに対する健康心理学」（愛知教育大学教育学部 小関 俊祐 先生）

子どもの学校適応の問題は、現代における重要な課題であり、健康心理学会においても、いじめや不登校、あるいは子どもの心理的ストレスに対して、さまざまな観点からの基礎的研究、実践研究が蓄積されてきました。

私も、認知行動療法の観点から、子どもの抑うつに対する学級集団における介入として、社会的スキル訓練や認知的再体制化の手続きを用いた実践研究を行ってきました。

このような研究を進めていく中で、近年強く問題意識を抱えていることの1つに、特別な支援が必要な子どもに対しても、学校適応の促進や心理的ストレスに対する予防的支援が必要である、という観点があります。

特に、発達障害を抱えている子どもを対象とした場合には、障害特性に係る課題に加え、二次障害と言われるような、心理的ストレスに関連する問題や行動上の問題の発現が対応すべき課題とされてきました。このような問題に対し、従来は、対象となる子どもに対し、通級指導等の形で、個別に対応することが主でした。

しかしながら、習得した対処方略を遂行する場面が学級集団の中であることを踏まえると、これまでの学級集団に対する支援の枠組みを活かすことが可能であると考えています。

具体的には、特別な支援が必要な子どもと、その子どもが属する集団の子どもたちとの間に確認された機能的な相互作用に対してポジティブな結果を随伴させ、さらにそのポジティブな結果を子どもたち自身が正しく認知することが可能になれば、双方に利益のあるプログラムの構築が可能であると考えています。

まだまだ課題の多いテーマですので、ぜひ、広い観点からご意見をいただけましたら幸いです。

●小関先生HP

<http://souran.aichi-edu.ac.jp/profile/ja.pESa4-j0Jb.tuvG9ow4aYA==.html>

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更については下記アドレスまで。

日本健康心理学会事務局 <jahp-post@bunken.co.jp>

メールマガジンへのご意見・ご感想については下記アドレスまで。
広報委員会 <jahp-ML@bunken.co.jp>